



小城市立歴史資料館 ✨ 中林梧竹記念館だより

令和3年度中林梧竹記念館第1期収蔵品展 「梧竹・生涯の書」開催中です

中林梧竹の各年代の名品を展示し、梧竹の書歴をたどります。

◆期間

～9月5日(日)

◆場所

中林梧竹記念館
常設展示室

◆観覧料

200円
(大学生以下無料)



「壽」▶
梧竹55歳頃の作品
(掛軸)

令和3年度小城市立歴史資料館第2期テーマ展 長崎街道と小城Ⅱ「西の浪花 牛津」 を開催中

牛津に関する写真、パネル資料の展示を行います。

◆期間

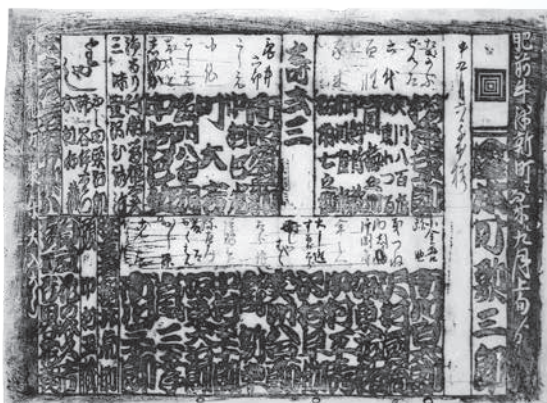
～8月1日(日)

◆場所

歴史資料館 常設展示室内

◆観覧料

無料



▲芝居演目(牛津新町で開催された当時のもの)

おぎの歴史 ✨ 探検隊

小城市内の近世石工の里を訪ねて〈その3〉

今回は、砥川石工についてご紹介します。現牛津町上砥川地区は、戦国時代から江戸時代の初め頃は多久安順の領地でしたが、元和7(1620)年の「三部上地」により、谷地区を除く地域は佐賀本藩に編入されました。

この時、砥川一帯に住んでいた石工たちは、当時の多久邑主に歎願し、谷村にまとまって住むようになったという記録が残されています。

砥川石工は、豊臣秀吉の朝鮮派兵の拠点となった名護屋城をはじめ、城の石垣づくりや肥前鳥居と呼ばれる地域色豊かな石造鳥居づくりで活躍しました。一部の石工が塩田や西川(小城)、値賀河内(玄海)に移り住んでそれぞれ石工集団を形成し、多方面で活躍したことから、砥川は肥前石工発祥の地と言われるようになりました。

砥川石工を代表する名工として名を残したのが平川与四右衛門です。与四右衛門は、貞享(1684年～)から天明(~1789年)までの約100年間に、3代にわたって世襲された石工名です。初代および2代は優れた彫刻技術の持ち主で、美術品としても高い評価を得る地蔵像や観音像を彫りました。その手による石仏は、佐賀・長崎・熊本・大分の4県に40体ほど残っているのが確認されています。これだけの数の石仏で製作者の名前が確認できる例は全国的にみても珍しいといえるでしょう。(終) 小城郷土史研究会/著



▲与四右衛門が作った
千手観音像
(空山観音堂
=牛津町両新村)

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132